

家庭学習の手引き（保護者用）

指宿市立山川小学校

基礎学力の定着が叫ばれている昨今、山川小でも子どもたちの学力を上げるため、様々な取り組みを行います。その中で、家庭学習への取り組みも大切な項目の一つですが、「家庭で子どもに学習をさせるときにどのようにすればよいか分からない」という声もよく聞きます。

そこで、「家庭学習の手引き」を児童用と保護者用に作成しました。家庭学習の基本的な事柄が書いてありますので、よく御覧になって、家庭での学習指導にお役立てください。また、不明な点・詳しく知りたい点等がありましたら、御遠慮なく担任の方に御相談ください。

家庭学習の仕方

家庭学習の仕方は、各学年部で出される児童用の「学習の手引き」を参考にしてください。ここでは、保護者の方に気にかけて頂きたい点を具体的に挙げたいと思います。

○ 家庭での学習時間（最低ライン）

1・2年・・・40分 3・4年・・・60分 5・6年・・・80分

- 上記の時間は宿題と読書をする時間を含めた、最低限これぐらいはして欲しい時間です。読書の時間は、音読の時間と読書の時間を合わせたものです。音読については学級から音読カードが配付されますので、最後に見届けの印を保護者の方が付けてください。それから漢字や日記など、早く書いて文字が雑にならないように宿題の見届けをお願いします。

○ 一日の中で、決まった時間に学習する習慣をつけましょう。

- 学習の習慣をつけることは大切です。平日の帰宅後や休日は、学習の時間を設定して取り組むようにお子さんと話し合って時間設定をしてみてください。特に休日は、登校日前日の夜に宿題をすることがないように声かけをお願いします。

○ 学習時間はテレビなどを消して、集中できる環境作りをしましょう。

- 学習は、周りに学習意欲を下げるものを置かないことで集中することができるようになります。学習時間は勉強に集中できる環境を作ることを心がけるようにしてください。

○ 復習に力をいれましょう。

- 学校からは宿題が出されます。宿題はこれまで学習したことを振り返ったり、基礎学力の定着を図るために出されます。ここでの復習とは、宿題とは別にその日に学習したこと（国語、算数、理科、社会を中心に）振り返ることです。それぞれの教科で目安として5分程度でもいいです。教科書とノートを開いて復習をするようにしましょう。また、必要に応じて、担任から次の学習の準備（予習）をすることもあります。

○ 保護者が終わった後の確認を

- 学習が終わったら、どんなことをしたか、短い時間でも結構ですので目を通してあげてください。家庭学習の習慣が身につくまではしっかりと見てあげてください。そして、少しでも頑張ったところやできるようになったことをほめてあげてください。

○ 家庭での勉強の教え方について

- 勉強を教えるのは、復習の範囲でなら、低学年で簡単なうちはどんどん教えてあげてください。高学年で難しくなったら「明日、先生に聞いてみたらいいよ。」と声かけをしてください。

家庭で保護者の方が教えるとき、「私たちのころとはやり方が違うから教えられない」と言われる方も多いのですが、やり方が違ってそれもまた一つの方法です。学校で違ったやり方を発表して、『そんな解き方もあるんだ』というのもいい勉強になると思います。

学用品について（学校に持ってくる分も含めて）

○ 筆記用具

- 正しい持ち方をしっかりと身につけるため、鉛筆を使わせてください。学校では子どもの腕にかかる筆圧の関係上、シャープペンシルやロケット鉛筆の使用は禁止ですので、持たせないでください。
- 筆箱には鉛筆（2B～HB）5本ぐらい、消しゴム、定規（できるだけ透明に近いもの）、赤・青ペン（または赤青鉛筆）は必ず入っているようにしてください。
- ノートは、低学年では12～17マスぐらいの四角いマスのもので、中～高学年では5mm方眼ノートを使用させてください（教科や学年でも違うので、詳しくは担任にお聞きください）。

家庭での読書への取り組み

○ 読書は心と頭を育てる最高の栄養

- 机に向かって取り組む学習も大切ですが、読書もまた学力向上には欠かせないものです。しかし、だからと言って子どもの興味のないものを強制的に読ませようとすると、本が嫌いになってしまいます。
- お子さんがどんな本が好きか、ご存じでしょうか。週に一度は読書の機会を設けて、親子で本を読んだり読み聞かせをしたり、一緒に図書館に行って本を借りたり、本屋さんに連れて行ったり…などの時間が持てると思います。
- 読書感想文などは、子どもが興味を持って自主的に取り組むのはいいのですが、無理にさせると本嫌いの子になります。させる場合は「（登場人物に）お手紙を書いてみたら？」など、子どもが興味を持つような形で促す程度にしてください。

参考資料：家庭学習の留意点

低学年

- 親の関心が高い時期
- 内容的には難しくないので、教えやすい時期
- 機械的な訓練や繰り返しをあまり嫌がらない時期
- ほめられることによって驚くほど集中する時期
- ◎ まず、子どもの力でできるだけさせる。
- ◎ あっているところをほめて、間違いを手直しさせる。
- ◎ 本を読むのを聞いてやったり、計算の時間を計ったりしてやる。
- ◎ 子どもがやるべきことを親が横取りしない

中学年

- 親の関心が低くなる時期
- 親が勉強に手を入れて、一番効果の上がる時期
- 遊びと勉強がはっきり分かれる時期
- 勉強に対するつらさが生まれる時期
- 友達に負けたくないから、つらくても頑張るという時期
- 教科の指導内容が、今後の基礎となるものが多い時期
- 機械的な繰り返しを嫌うかわりに考える力がつく時期
- ◎ 答えだけを教えるのではなく、「こういうふうに考えてごらん」など、考え方のアドバイスが有効である。
- ◎ どのような辞典や資料を調べたらよいかをアドバイスする。
- ◎ 答えだけを写してできたような顔をしてすます子どもにしないよう心がける。

高学年

- つらいことでも大切なことのためならするという時期
- 勉強のつらさや苦しみが分かり、「勉強しなさい」に反発する時期
- 難しい内容に親の力が及ばなくなる時期
- ◎ 教えなくてもよい。
- ◎ 勉強しやすい環境を作る。
- ◎ 勉強の必要性について話してやる（押しつけにならないように）。

☆ 例えば、しかり方なども、「○○をしちゃダメでしょ。」と一方的に押しさえつけるのではなく、「今の○○がしないといけないことはなんだと思う。」と会話形式にして考えさせることによって、思考力が格段についていきます。日々の小さな積み重ねが、子どもの力を伸ばしていくのですね。